

THE 12TH VACCUM AND SURFACE SCIENCE CONFERENCE OF ASIA AND AUSTRALIA

October 13-17, 2024 Taipei, Taiwan

Title

「Patterning of Layered Semiconductor GeS₂ by Laser Photo-Oxidation」

大阪公立大学 工学研究科 電子物理系専攻 電子物理工学分野
表面界面物性研究グループ 修士2年 田原匠陽

シンポジウムの内容：

- Opening
- Plenary Session
- Oral Session

(Catalytic Materials and Processes / Applied Surface Science / Thin Film / Surface Engineering / Nanometer – Scale Science & Technology / Plasma Science & Techniques / Renewable Energy Technologies / Biosurfaces , Interfaces , Nanostructures / Vacuum Science & Technology / Accelerator and Radiation Sciences and Technology / Magnetic Surfaces , Interfaces and Nanostructures)

- Poster Session



会場内の様子・雰囲気：

会場は 300 人程入ることができそうな広めの会場が 3 カ所とポスター会場が 1 カ所あったが、公聴の参加人数は 1 会場につき 20 人程と少なかった。しかし私も発表した Nanometer – Scale Science & Technology セッションにおいては、50 人程が集まっており、会場の広さに対しては少ないものの、ナノスケールトピックはやはり注目されていた。



所感：

初めての国際会議への参加、また国際会議での口頭発表だったので、とても緊張した。国際学会では「英語での発表の難しさ」だけでなく、「コミュニケーションの難しさ」や「積極性の重要性」、「乗り越えたことによる自信」など様々なものを学び、得ることができた。会場は、当たり前のことだが、日本語はほぼなく、全員が英語を話しており、国内の学会とは違うスピード感に圧倒された。ランチ時間や休憩時間では、知らない人同士で会話を楽しんでいる姿を多く見かけたが、積極性や英語能力の低さからなかなか人と話すことはできず、寂しい感覚を覚えた。公聴も多く行ったが、やはり英語の発表は理解をするのが簡単ではなく、スライドを読むことで理解することがやっとであり、自身の英語の聞き取り能力の低さを実感した。しかし、研究は最先端のものが多く、多くの国で多種多様なナノスケール物質への取り組みが行われており、興味深かった。また、自身の発表に関しては、多くの練習を

重ねたので、スムーズに発表することができたが、質疑応答に関しては、質問内容を理解することが難しく、正確に答えることができなかった。自身の研究以外の部分で苦戦してしまい、議論を深めることができず、とても悔しかった。しかし、自身のセッションが終わった後に、自身から質問者へもう一度話しかけ、もう一度質問内容を聞くことによって、時間をかけて議論を深めることができ、とても有意義な発表となった。ここでようやく自身の発表をやり切った達成感を得ることができ、今後の発表への自信にもつながった。

この国際学会の経験を経て、国内では得ることの難しい、積極的に動くことの重要性や英語での議論の難しさを学ぶことができ、自分の研究への自信をつけるととてもいい機会になった。今回学んだことを活かし、今後も国際会議での発表に挑戦したいと考えている。

大阪公立大学電気クラブの国際会議発表支援に深く感謝します。

今後ともよろしくお願いいたします。